

「スキル向上研修」 終了報告

令和元年 12 月 12 日、就労支援担当者スキル向上研修が終わりました。研修には定員の 30 名を超えるお申し込みをいただきました。参加をお断りした方もいたことを、この場を借りてお詫びいたします。

さて、今回のスキル向上研修では、ジョブコーチの支援スキルを盛り込み、講義と実践形式で行いました。午前の部は、えべつ障がい者しごと相談室すてら 室長の川田純氏を、午後の部はくしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぶれん センター長の高谷さふみ氏を講師に迎え進めて参りました。また、グループワークの進行と実践の相手役として、釧路のぞみ協会 自立センター 和泉宣也氏、相談支援事業所はちす園 石田希氏、株式会社ちあふる 小関勝俊氏、帯広市自立相談支援センターふらっと 八重樫薫氏、おびひろ地域若者サポートステーション 永野拓己氏にご協力いただきました。

午前の部は「伝える技術・企業との交渉」をテーマに、企業訪問時の聞き取りから交渉まで、気を付けるポイントを講義で確認した後、ロールプレイを行いました。ロールプレイでは、参加者でもある企業担当者を相手に、実際の求



人票をお借りして行い

ました。その中で、企業の方の気持ちを確認することを忘れ自分たちの売込みばかりをしてしまう傾向があったり、福祉では当たり前の専門用語を用いての説明では企業には伝わらないということを感じる場となりました。講師の川田さんからは、企業が抱えているニーズを聞き取る力がジョブマッチングに繋がること、雇用管理は企業の役割とし、支えるという視点をもってサポートを行う事の大切



さのお話がありました。

午後の部では、「わかりやすく教える技術」をテーマに講義を受けた後に、課題分析からシステマティックインストラクションの実践を行いました。①口頭指示 ②ジェスチャー ③見本の提示 ④手添えと介入の度合いを考え順序だてて教える技術ですが、日ごろ何気なく関わっていたことに理屈を持ち分析しながら関わる方法は、考えている以上に難しさがありました。



余計な情報を与えて混乱させてしまっていることに気づいた方が多かったですと感じます。講師の高谷さん



からは、わかりやすく教える意義として、我々のかかわりは障がいのある人が自立して仕事ができるようになることだけではなく、企業のナチュラルサポートの橋渡しであったり、接し方のモデルであることの大切さをお話いただきました。

今回の研修会を通して、十勝管内の就労支援に熱心な皆さんが沢山いらっしゃることを再確認し、今後も知識や技術を高める研鑽の機会を設けたいと感じました。また、今回のような内容は一度聞いて終わりではなく、定期的に自分の姿勢や関わり方を確認する場になるとも思いました。

当センターでは、支援者向け、求職者向け、企業向け、地域づくり等、様々な内容で研修を企画しておりますが、研修会の持ち方も大規模なものからグループ単位で学べるものまで、バリエーションを持つことも検討したいと考えております。

十勝管内の障がいのある方の雇用の充実と、生まれ育った土地で生活を送ることが可能な地域づくりのため、皆さんと協力し事業を進めてまいりますので、今後ご協力をお願いいたします。